

令和7年度 石狩浜海浜植物保護センター活動報告書 (中間報告)



石狩市環境市民部
石狩浜海浜植物保護センター

目次

内容

事業概要	1
事業方針及び位置づけ	2
令和7年度事業計画	3
活動報告	8
Ⅰ.自然情報発信・体験学習事業	8
Ⅱ.データに基づく	が定義されていません。
Ⅲ.自然資源の適	が定義されていません。
利用状況	が定義されていません。
調査報告一覧	令和7年度第2回で報告予定
海浜植物等保護地区	が定義されていません。
沿革	が定義されていません。

事業概要

石狩浜海浜植物保護センター(以下、「保護センター」)は、平成 12 年にオープンし、石狩市環境基本条例及び石狩市海浜植物等保護条例、石狩浜海浜植物保護センター条例に基づき、石狩浜に生育する海浜植物を基盤とする海浜生態系の多様性の保全に関する意識の普及啓発を図ります。

市直営をベースとし、施設の一部であるハマナス再生園の管理や保全対策のためのデータ収集、普及啓発に関わる業務を一部委託する体制で運営しました。

事業については、いしかり生き物かけはし戦略(石狩市生物多様性地域戦略)、「石狩浜アクションプラン」に基づきながら進めています。

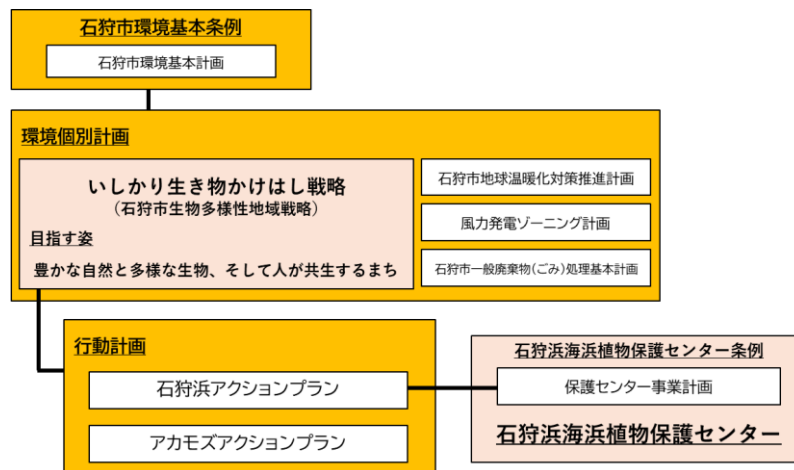


図1. 保護センター事業の位置づけ

令和7年度は、夏休みに合わせて海浜植物の普及啓発を目的とした『石狩浜の自然であそぼう—クラフト・実つき体験 WEEK—』を開催しました。クラフト体験をはじめ、ハマナスの実つき体験、調査研究コーナーで特別展を開催しました。

また、石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会と共催で「第 13 回はまなすフェスティバル」を開催しました。ハマナスが咲く時期に多くの人が石狩浜へ訪れ、そこからハマナスや石狩浜の大切さを考えるきっかけになればと考え、ハマナスを五感で楽しむための体験や商品を提供するとともに、石狩浜の自然環境の現状や生物多様性を知るきっかけとなるブースも設けました。

事業方針及び位置づけ

表：石狩浜海浜植物保護センター事業方針

	事業方針	事業概要	目指す姿 (石狩浜アクションプラン)
I	自然情報発信・体験学習事業	海浜植物や石狩浜の海浜生態系に関わる情報を保護センターの展示室や観察園を用いて発信し、石狩浜への興味の向上と郷土愛の醸成を図り、石狩浜の保全に関する意識へつなげる。	石狩浜の自然に対するシビックプライド浸透のための基盤づくり
II	調査・研究・保全事業	海浜植物保全に関する生態・生育情報の収集、収集したデータの蓄積・考察・検証から必要な保全対策の検討をする。	データに基づく保全対策
III	自然資源の保全・活用事業	海浜植物等保護地区における海浜植物や地形の状況把握、過度なレジャー利用に対する注意喚起、本来の保護地区としての利活用に関する維持管理等を実施する。	自然資源の適正管理と適正利用

【事業分担】

	事業(大項目)	事業(中項目)	正規職員	非正規職員 (会計年度任用職員)	委託事業者
I	自然情報発信・体験学習事業	1. 展示室	○	○	
		2. 観察園	○	○	
		3. ハマナス再生プロジェクト	○		○
		4. 体験プログラム	○		○
		5. 情報発信/連携	○		○
		6. 調査研究の発信	○		○
		7. 来館者のニーズ、意識把握	○	○	
II	調査・研究・保全事業	1. 現植生・生物相の把握	○		○
		2. 植生管理	○		○
		3. 希少種	○		○
		4. 外来種	○		○
		5. 資料・データの集約・管理	○		○
III	自然資源の保全・活用事業	1. 保護地区の利用状況把握・監視・維持管理	○	○	
		2. 景観保全による観光資源利用	○	○	
		3. 保護地区のルール of 普及啓発	○	○	○

令和7年度事業計画

I. 自然情報発信・体験学習事業

凡例 →:現状維持 ↗:拡充 ↘:縮小 新:新規事業

項目	目的	年度目標	具体的な業務内容
1. 展示室(P)			
1-1常設展示の維持管理	石狩浜の成り立ち、海浜植物の生態的な特徴、石狩浜の生態系といった石狩浜の自然環境保全の基礎となる情報について展示をすることで、石狩浜の基礎的な情報を知ってもらい次の興味に繋げる。	事業Ⅱで得た調査データ・標本等を活用した状況を確認する。	↗ ・日常業務として、補修、修繕の有無を点検 ・前年に引き続き見直しをもとにした修正
1-2. 展示室と観察園の連動した見学	展示室のみの利用者が多くみられることから、観察園の利用を促すようなしかけを実施し、海浜植物の普及啓発につなげる。	展示室内での観察園の開花情報の更なる発信と、SNSやオンラインを活用した情報の発信を引き続き実施する。	→ ・日常的に来館者への声かけ ・自発的に観察園利用へつながる展示の見直し ・クラフト体験を通じた実物観察 ・SNSを活用した開花情報の配信
2. 観察園(P)			
2-1. ゾーンの目的に沿った植生維持管理	石狩浜で見られる連続した植生帯を現地の調査をもとに展示と連動するように再現し、来館者が快適に園内を利用できるように整える。	再現区:Ⅱ-2-2で検討した管理手法を用いて管理する。 見本品:主要な海浜植物を短い距離で観察できるように整える。	→ ・職員及び普及員による日常業務として管理
2-2. 園路およびサインの整備・維持管理		観察に適した園路・木道の維持管理や、植物名等のサイン表示の点検・管理・修繕をする。	→ ・日常業務内で点検・管理 ・季節に応じたサインの追加、更新 ・害虫等の防除 ・園内の清掃
3. ハマナス再生プロジェクト(P)			
3-1. ハマナス再生園の整備・維持管理	ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地域づくりをめざす場の拠点として、現地情報をもとにハマナスを主体とした植生管理を進める。	Ⅱ-2-2で検討した管理手法を用いてハマナス群落の維持・管理を継続する。	→ ・普及員等による日常業務として管理
3-2. 普及啓発活動		ハマナス再生園を活用した普及啓発活動の実施。 ハマナスの花びらや果実を活用して石狩浜のPRをする企業への協力。	→ ・再生園を使った環境学習や体験プログラムの実施 ・共催イベントの実施(はまなすフェスティバル) ・ハマナスの花弁・果実の採取管理

4. 体験プログラム(P)				
4-1.施設活用型プログラムの実施	石狩浜の海浜植物をはじめとした、石狩浜の生物多様性について知る機会の創出を目的に、保護センター施設を活用した取り組みやすい仕組みづくりと、アクティブラーニングを主体として進める。	既存のプログラム実施。 体験を通じて海浜植物や海浜地、生物多様性を学べるプログラムの検討・検証。	↗	・教育機関等における環境学習の実施/検証/修正 ・補助教材の見直し/修正
4-2.施設外プログラムの実施	センター外を会場に、石狩浜や保護センターの保全に関わる関係主体と連携し、保全に努める。	関係主体の実施する事業等への協力、広報等の支援の実施。	↗	・連携団体主催事業への積極的な参加(CISE ネット/館ネット) ・SNS や市内回覧を活用した普及啓発
4-3.公募型プログラムの実施	生物多様性に関わる保全活動(調査・研究等)について、一般の方でも取り組める内容で実施し、石狩浜の自然に興味関心を持つ人を増やす。	植生管理と連動した参加型資源活用プログラムの開発。 石狩浜に生息・生育する動植物の調査体験プログラムの開発。	→	・Ⅱ-2-2で検討した管理手法を活用したプログラムの検討、検証 ・動植物に関する体験プログラムの検討
5. 情報発信/連携(P)				
5-1.ホームページ維持管理	石狩浜の自然について、遠隔地に向けた普及啓発を目的に、ネットワークを活用した情報発信。また、市民の自主的な石狩浜の保全活動につながる情報の発信、活動の展開を図る。	海浜植物や、保護センターでの情報、石狩浜の生物多様性について広く情報を発信する	→	・調査写真や、観察園の開花情報などを随時ホームページにて更新(目安として月に1度) ・年に3回の機関誌発行 ・市内回覧を活用した普及啓発の推進
5-2.情報誌の発行				
5-3.近隣施設での情報案内				
6. 調査研究の発信(P)				
6-1. 調査研究報告、学習報告等の掲示	石狩浜の自然に関わる、研究機関や教育機関等による研究や取組について紹介することで、より深い活動について知る機会を創出。	石狩浜に関する研究情報や、環境学習での学習成果等を年2～3件を目標に掲示する。	→	・調査者に活動報告の展示を依頼
7. 来館者のニーズ、意識把握(P)				
7-1. 来館者からの意見収集	来館者の意見を聞く機会の創出。	新たにオンラインアンケートの活用と、環境学習の参加者に対して意見を聞く体制を検討する。	→	・オンラインアンケートの活用

Ⅱ.データに基づく保全対策の実施

凡例 →:現状維持 ↗:拡充 ↘:縮小 新:新規事業

項目	目的	年度目標		具体的な業務内容
1. 現植生・生物相の把握(P)				
1-1. 石狩浜モニタリング調査	【植物】 石狩浜の植生遷移や変化を把握、観察園における植生管理の基礎データ等を目的に長期的なデータの蓄積を図る。	見本植生区のモニタリングを続ける。 遷移が進む植生帯の状況を把握する。	→	・現地調査(7～9月)
	【動物】 石狩浜を利用する生物種を対象に、その種の動向について自動撮影カメラ等を用いながら随時状況を確認し、対策等に必要な情報を収集する。	必要に応じて、種の生息地マッピング及び、生息状況の確認。	→	・自動撮影カメラ等による生息状況の確認。
2. 植生管理(P)				
2-1. 聚富海岸植生再生試験(モニタリング調査協力)	聚富地区における見本植生区の変化を蓄積する。	道総研との連携協力。	→	・植生調査の実施等
2-2. 海浜植生の維持管理手法の蓄積(海岸草原保全手法の検討)	現地調査データを参考に、海浜植生の効率的な維持管理を模索し、保全管理に関わる知見や技術を蓄積する。	見本植生区のデータに基づいた植生管理手法の検討・検証(観察園、ハマナス再生園)。自生種による外来種防除実験の検証。	→	・既存調査区のモニタリング
3. 希少種(P)				
3-1. 希少種イソスミレの生育状況の把握	希少種イソスミレの生育地について、地理情報及び植生構成を押さえ、環境変化に左右されやすいイソスミレの保全対策に繋げる。	生育が危ぶまれる個体群の保全対策の実施、検証。	↗	・分布、個体群調査(5月、9月) ・具体的な保全手法の実施(8～9月) ・今後のモニタリング手法について検討

3-2.ハマボウフウの生育状況の把握	保護地区内外のハマボウフウの生育状況の比較と継続的な採取圧による生育への影響を把握し、今後の自然ふれあい地区におけるハマボウフウの科学的データに基づいた持続可能な資源利用への根拠データとする。	設定した調査ラインでエリアごとの生育状況、採取状況について把握する。	→	・サイズ別株数等の記録 ・監視員業務等の情報を用いて採取状況の把握
3-3.その他	環境省及び北海道のレッドリストに記載されている希少種、及び個体群として今後石狩浜で状況を把握する必要がある種（動植物）について、生育・分布情報をモニタリングし、対策に繋げる。	該当する種について生息・生育環境、数等について記録する。	→	・位置情報を記録、分布の把握
4.外来種(P)				
4-1.現状の把握	石狩浜の生物多様性保全のために、外来種の早期発見と防除の実施を検討する。	他機関や他の調査等の情報をもとに、外来種の早期発見をすると共に、必要に応じて早急な防除対策に努める。	→	・多方面からの情報収集 ・必要に応じた現地調査
5.資料・データの集約・管理(P)				
5-1.標本の管理	地域資料の保管と、保全を進めるための情報の収集と管理をする。	適切な環境で保存されるように、日常的な点検をする。	→	・標本の定期点検 ・調査報告書の作成、関係機関報告書の収集など
5-2.自然情報の収集・管理	環境調査、モニタリング、その他石狩浜に関わる調査研究の報告書などのデータを一括管理し、保全及び情報発信のデータベースとして構築する。	収集データ及び今後の収集するデータについて、まとめて公開できる体制を検討する。	→	・調査報告書の作成、関係機関報告書の収集など ・既存の蓄積データと今後の調査データを合わせた収集・管理の検討 ・公開の手法検討

Ⅲ.自然資源の適正管理と適正利用

凡例 →:現状維持 ↗:拡充 ↘:縮小 新:新規事業

項目	目的	年度目標		具体的な業務内容
1. 保護地区の利用状況把握・監視・維持管理(P)				
1-1.車両侵入の有無、誘導ロープ等の設置・修繕	条例に基づいた海浜植物等保護地区の海浜植物等を保全するための維持管理をする。	監視員の情報をもとに現状を把握し、必要に応じた対策を都度実践する。	→	・監視員の配置 ・現状の保護地区の監視、車両侵入への対応、ロープの補修等を実施
1-2.単管柵の維持管理			→	・柵の維持管理 ・管理者との情報共有
2. 景観保全による観光資源利用(P)				
2-1.聚富海岸植生再生試験 (モニタリング調査協力)	聚富地区における見本植生区の変化を蓄積する。	道総研との連携協力。	→	・植生調査の実施等
2-2.海浜植生の維持管理手法の蓄積 (海岸草原保全手法の検討)	現地調査データを参考に、海浜植生の効率的な維持管理を模索し、保全管理に関わる知見や技術を蓄積する。	見本植生区のデータに基づいた植生管理手法の検討・検証(観察園、ハマナス再生園)。自生種による外来種防除実験の検証。	→	・既存調査区のモニタリング
3. 保護地区のルールの普及啓発(P)				
3-1.体験プログラムを通じた自生地保全の普及啓発	自然とのふれあいを通じて、保護地区や石狩浜の自然に関する普及啓発を図る。	既存のプログラムや展示と連動した保護地区の普及啓発の実施。	→	・海浜植物を活用したプログラムの作成

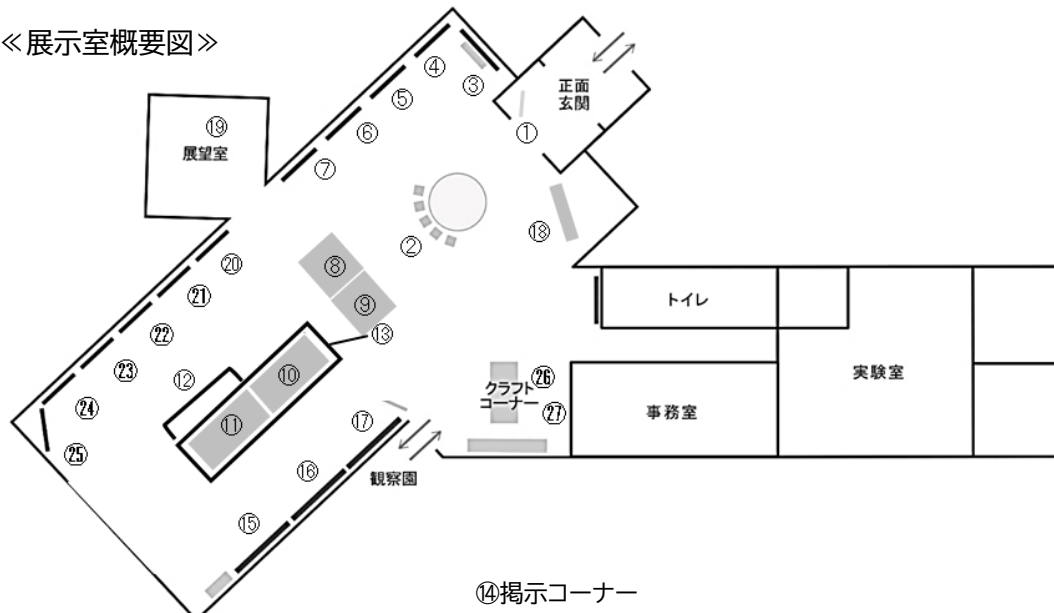
活動報告

I. 自然情報発信・体験学習事業

1. 展示室

項目	目的
1-1. 常設展示の維持管理	石狩浜の成り立ち、海浜植物の生態的な特徴、石狩浜の生態系といった石狩浜の自然環境保全の基礎となる情報について展示をすることで、石狩浜の基礎的な情報を知ってもらい次の興味に繋げる。
1-2. 展示室と観察園の連動した見学	展示室のみの利用者が多くみられることから、観察園の利用を促すようなしかけを実施し、海浜植物の普及啓発につなげる。

≪ 展示室概要図 ≫



①観察園みどころボード(随時更新)

②石狩浜の成り立ち

③保護地区情報/海浜植物保護のあゆみ

④生きものごよみ

⑤石狩浜海浜植物等保護地区

⑥石狩浜の地形

⑦全国の海岸砂丘

⑧海浜植物の紹介

⑨石狩浜の地形と海浜植物

⑩石狩浜の生態系模型

⑪石狩浜に暮らす生き物のつながり

⑫石狩浜の生きもの

⑬引き出しクイズ

⑭掲示コーナー

⑮ハマナス再生プロジェクト/ハマナス再生園活動紹介

⑯調査研究コーナー

⑰石狩浜情報

⑱イベント情報ボード

⑲眺望できる山のイラスト(展望室の窓)

⑳不安定帯-後浜の植物

㉑不安定帯-第1砂丘前面の植物(1)

㉒不安定帯-第1砂丘前面の植物(2)

㉓半安定帯-第1砂丘背面の植物

㉔安定帯-第2砂丘前面の植物

㉕安定帯-第2砂丘背面の植物(海岸林)

㉖クラフトコーナー

㉗アップサイクルコーナー

1-1.常設展示の維持管理

年度目標		具体的な業務内容	到達度
事業Ⅱで得た調査データ・標本等を活用した状況を確認する。	↗	石狩浜の成り立ち、海浜植物の生態的な特徴、石狩浜の生態系といった石狩浜の自然環境保全の基礎となる情報について展示をすることで、石狩浜の基礎的な情報を知ってもらい次の興味に繋げる。	

令和6年度に作成した樹脂標本の展示を開始したほか、既存の石狩浜の生態系模型をさらに理解が深まるように生き物を増やし、説明文章を机上に配置しました。

樹脂標本については、目に止まる場所に置いたことから、来館者からすぐに見えるため、手に取って観察している様子がみられました。模型については、より多くの生き物が増えたため、環境学習等で子どもたちの興味をそそられる展示となりました。



図 1.1 展示室のようす

1-2.展示室と観察園の連動した見学

年度目標		具体的な業務内容	到達度
展示室内での観察園の開花情報の更なる発信と、SNS やオンラインを活用した情報の発信を引き続き実施する。	→	・日常的な来館者への声かけ ・自発的な利用への展示の見直し ・クラフト体験を通じた実物観察 ・SNS を活用した開花情報の配信	

令和6年度に入口に設置した開花情報ボードについて、今年度についてはセンターの展示の配置、観察園の情報、イベントの告知など保護センターの情報を大まかに設置しました。来館前に観察園の情報をお知らせすることで、昨年度よりも観察園へ向かう方が多く見られました。



図 1.2 お知らせボード

2. 観察園

項目	目的
2-1.園路およびサインの整備・維持管理	石狩浜で見られる連続した植生帯を現地の調査をもとに展示と連動するように再現し、来館者が快適に園内を利用できるように整える。
2-2.ゾーンの目的に沿った植生維持管理	

2-1.ゾーンの目的に沿った植生維持管理

年度目標		具体的な業務内容	到達度
再現区：Ⅱ-2-2 で検討した管理手法を用いて管理する。 見本区：主要な海浜植物を短い距離で観察できるように整える。	→	・職員及び普及員による日常業務として管理	

観察園は、開館当初から目的にあった「代表的な石狩浜の植物が見られ、海浜植物の特徴を体験できる場所」を目指し、観察園内をいくつかに分けて管理しています。

石狩浜の代表的な植生が見られる自生地に設定した見本植生区をもとに、再現を目指して管理をしています(図 1.3、表 1.1)。特に、中央部分に設定している植生再現区は、波打ち際の後浜から海岸林までの帯状構造を再現しています。背丈が低く、植物の種数が少ない後浜から、背丈が高くなり植物の種数が増える海岸林縁まで、石狩浜の植生を特徴づける植物が見られるように管理をしています。また、来館者が海浜植物の長い地下茎や根を実際に観察・体験できるように「ほりほりゾーン」を設置しています。

再現区及び見本区について、日常的に外来種や内陸性植物の除去をしました。再現区については表 1.2 にあるとおり作業を実施しました。今年度は特にヒロハクサフジの生長が早く、令和6年と比較して、除草作業が多く発生しました。また、秋のドクガ発生も多く見られたため、ドクガの対策を兼ねて観察園の全域を占めるハマナスの剪定を前倒しで実施しました。

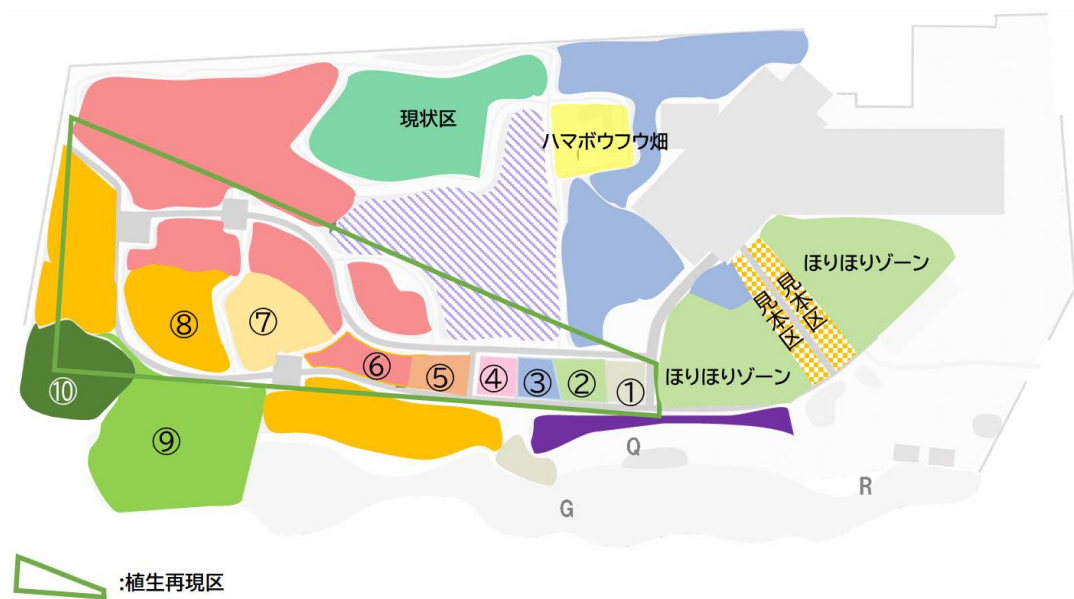


図 1.3 植生管理コンセプト

表 1.1 植生再現区ゾーン分け

No	自然状態	主な構成種
①	後浜～浜崖下・不安定帯	オカヒジキ、ハマヒルガオ、ハマニガナ
②	第一砂丘尾根～斜面・不安定帯～半安定帯	テンキグサ、ハマボウフウ、ウンラン、コウボウムギ
③	第一砂丘斜面～後背平坦地の植生・半安定帯	ハマハタザオ、イソスミレ、ハマエンドウ
④	第一砂丘後背平坦地の植生・半安定帯～安定帯	ハマナスが優占
⑤	第一砂丘後背平坦地の植生・安定帯	エゾノカワラマツバ、エゾカワラナデシコ、ハマエンドウ、ハマヒルガオなどとハマナスの混生
⑥ ⑦	第一砂丘後背平坦地～緩傾斜の第二砂丘の植生・安定帯	ハマナス、ミヤマアキノキリンソウ、エゾカワラナデシコ、オオヤマフスマなどとハマナス、エゾスカシユリ、ヒロハクサフジなどの混生
⑧	第二砂丘斜面～尾根部の植生・安定帯	ハマナスと高茎種・蔓性種の混生
⑨	カシワ林縁	ススキ、アキグミ、ツルウメモドキ、ヒロハクサフジ、キンギンボク、ミヤマイボタ、コマユミ、カシワ、ハマナス、アマニュウ、エゾリトラノオ、ホタルサイコ、クルマバソウ、マイヅルソウ
⑩	カシワ林	ススキ、アキグミ、ツルウメモドキ、ヒロハクサフジ、キンギンボク、ミヤマイボタ、コマユミ、カシワ、ハマナス、アマニュウ、エゾリトラノオ、ホタルサイコ、クルマバソウ、マイヅルソウ

表 1.2 再現区の作業内容

ゾーン	作業内容
①	春:移植(オカヒジキ) 秋:砂の掘起こし、砂かけ、播種(オカヒジキ) 通年:コウボウシバ、海浜植物の間引き、内陸性植物の除草※
②	春:苗の移植(ウンラン) 秋:砂かけ 通年:密度の高い海浜植物の間引き、コウボウシバ・内陸性植物の除草※
③	秋:砂かけ、移植(イソスミレ、ハマハタザオ) 通年:イソスミレ・ハマハタザオ周辺の除草、コウボウシバ・内陸性植物の除草※
④	秋:剪定(ハマナス) 通年:密度の高い海浜植物の間引き、剪定(ハマナス)、コウボウシバ・内陸性植物の除草※
⑤	春:除草(株が肥大したスズメノヤリ、チャシパスゲ) 夏:除草(ヒロハクサフジ) 秋:剪定(ハマナス)、間引き(スズメノヤリ・コウボウなど) 通年:内陸性植物の除草※※
⑥	夏:除草(ヒロハクサフジ・カセンソウ) 通年:内陸性植物の除草※※
⑦	夏:間引き(ヒロハクサフジ) 通年:内陸性植物の除草※※
⑧	夏:間引き(ヒロハクサフジ) 秋:移植(エゾスカシユリ) 通年:内陸性植物の除草※※
⑨	秋:ススキ、アキグミの刈取り 通年:カシワの稚樹周辺の除草、ススキの適度な刈取り
⑩	秋:ススキ、アキグミの刈取り 通年:外来種の除草、

※:スギナ、メヒシバ、ナガハグサ、ヒメスイバ、チガヤなど

※※:ナガハグサ、ヒメスイバ、ヘラオオバコ、カモガヤ、ホソムギ、ブタナ、オオアワダチソウ、ユウゼンギク、イワミツバ、ツルニチニチソウなど

2-2.園路およびサインの整備・維持管理

年度目標		具体的な業務内容	到達度
観察に適した園路・木道の維持管理や、植物名等のサイン表示の点検・管理・修繕をする。	→	・日常業務内で点検・管理 ・季節に応じたサインの追加、更新 ・害虫等の防除 ・園内の清掃	

観察園の入口に開花情報をプレートに表示する他、植物名のプレートについて必要最低限の情報を常に見やすい環境作りに努めました。また、今年度は、主要な海浜植物が短い距離で楽しめる「見本区」の整備をすることで、多くの来館者が海浜植物を楽しめるように整えました。



図 1.4 植生見本区

3. ハマナス再生プロジェクト

項目	目的
3-1. ハマナス再生園の整備・維持管理	ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地域づくりをめざす場の拠点として、現地情報をもとにハマナスを主体とした植生管理を進める。
3-2. 普及啓発活	

ハマナス再生プロジェクトは、ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地域づくりを目指すことを目的に、市民・事業者・石狩市が連携をして活動しています。保護センターの隣接地を活用して整備している「ハマナス再生園」は、ハマナス彩る砂丘の風景を再現するための試験地として、参加型の維持管理、環境学習利用や石狩浜をPRするための商品開発などの幅広い活動を支える基盤となっています。



図 1.5 ハマナス再生園(令和 7 年6月)

3-1. ハマナス再生園の整備・維持管理

年度目標		具体的な業務内容	到達度
Ⅱ-2-2 で検討した管理手法を用いてハマナス群落の維持・管理を継続する。	→	・普及員等による日常業務として管理	

日常の維持管理については、観察園同様に自生地の見本植生区を参考に、ハマナスの生育を妨げる内陸性植物の除草や剪定、自生地の植生に基づいた種の移植、園路の除草などの管理をしました。また、日常的に発生する除草作業時に出てくる植物を活用し、ブーケやリースづくりに再利用しました。一連の取組について、展示室に展示しました(図 1.6)。



図 1.6 アップサイクルコーナー

3-2. 普及啓発

年度目標		具体的な業務内容	到達度
ハマナス再生園を活用した普及啓発活動の実施。 ハマナスの花びらや果実を活用して石狩浜のPRをする企業への協力。	→	・再生園を使った環境学習や体験プログラムの実施 ・共催イベントの実施(はまなすフェスティバル) ・ハマナスの花弁・果実の採取管理	

日常的に、保護センターで実施する環境学習プログラム内において、ハマナス再生園での取組みを紹介しています。今年度は、さまざまな手法を用いてハマナスに関連した体験プログラムの構築に向けて実施しました(表 1.5)。

表 1.3 再生園を活用したイベント一覧

日にち	参加者数	作業内容・備考
6月9日(日)	600人	はまなすフェスティバル
8月8日(土)～ 8月17日(日)	30人	ハマナスの実を収穫しよう
9月27日(土) 9月28日(日)	47人	ブーケづくり体験

令和6年度に1日限定だったハマナスの実摘み体験の期間を1週間に伸ばし、「ハマナスの実つみ体験-石狩浜の夏の風物詩-」として多くの方にハマナスの実摘みを体験してもらいました。石狩さけまつりでは、開催に合わせて除草時に出た植物を活用したブーケづくり体験ができる企画を開催しました。

2012 年から続けている「はまなすフェスティバル」は、今年で 13 回目となり、ハマナスの花が最盛期を迎える時期に合わせて開催しています。「いしかり本町灯台とハマナス Day」と同時開催し、石狩本町地区を楽しめるお祭りになっています。ハマナス再生園を会場に花摘みと、ヒメスイバの除草を組み合わせた除草体験や、保護センターの展示を活用したハマナスなぞときクイズ、石狩浜の生物多様性を表したイラスト顔出しパネル、野外ブースを会場に花びらを使った蒸留実演、ハマナスを使った食品や雑貨の販売、ワークショップなどのブースを設け、約 600 名が来場しました。広報は、市内小学校へのちらし配布や、広報いしかりなどで宣伝しました。

ハマナスを使った商品を通じて石狩浜の保全を広げるため、事業者によるハマナス再生園での花卉、果実の採取については今年度の花卉は約 9.8 kg、果実は約 3 kgの採取となりました。



図 1.7 実つみ周知チラシ



図 1.8 はまなすフェスティバル 2025 様子

4. 体験プログラム

項目	目的
4-1.センターを活用したプログラムの実施	石狩浜の海浜植物をはじめとした、石狩浜の生物多様性について知る機会の創出を目的に、保護センター施設を活用した取り組みやすい仕組みづくりと、アクティブラーニングを主体として進める。
4-2.センター外での普及啓発の実施	センター外を会場に、石狩浜の海浜生態系を中心として、自然環境に興味を持ってもらうための普及啓発を実施する。
4-3.公募型プログラムの実施	生物多様性に関わる保全活動(調査・研究等)について、一般の方でも取り組める内容で実施し、石狩浜の自然に興味関心を持つ人を増やす。

4-1.センターを活用したプログラムの実施

年度目標	具体的な業務内容	到達度
既存のプログラム実施。 体験を通じて海浜植物や海浜地、生物多様性を学べるプログラムの検討・検証。	↗ ・教育機関の環境学習の実施/検証/修正 ・補助教材の見直し/修正	

石狩市内の教育機関から環境教育プログラムの実施要望があり、のべ 11 校 319 名の利用がありました

I-1-1 で報告したとおり樹脂標本の設置や、生態系模型の修正をしたところ、環境学習でも多くの児童生徒が興味示して学習をしていました。引き続き、興味がわくような展示や内容に整え、学びに繋がるプログラムと展示の連携を進めていきます。

表 1.4 令和 7 年度の教育機関受入れ一覧

実施日	教育機関	学年	テーマ/内容	人数
6 月 23 日	生振小学校	1 年生	石狩浜ってどんなところ？ ・海浜植物について ・ハマナスの観察 ・クラフト体験 ・ほりほり体験	14
6 月 26 日	緑苑台小学校	4 年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	50
6 月 27 日	石狩中学校	1 年生	生物多様性ってなんだろう？ ・石狩浜の自然 ・石狩浜の課題と対策 ・漂着物からつながりを考える	13
7 月 3 日 4 日	南線小学校	3 年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	132
7 月 18 日	花川北陽 認定こども園	年中/年長	ハマナスの植え替え 石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	36

7月30日	石狩翔陽高校	3年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	3
9月3日	石狩八幡小学校	5年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について ・ハマナスの観察 ・ほりほり体験	19
9月10日	厚田学園	4年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	2
10月1日	花川小学校	3年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について ・ハマナスの観察 ・ほりほり体験 ・石狩灯台について	36
10月2日	生振小学校	1年生	石狩浜ってどんなところ？ ・クラフト体験(フォトスタンド) 海辺にあつまるもの調べてみよう！	14
11月13日	杉並商業高校			
利用件数(のべ)/環境学習受入れ人数(のべ)				11件 /319名

日常から、根や地下茎を掘り起こすことで海浜植物の生態を学ぶ「ほりほり体験」と、漂着物を使った「漂着物のクラフト体験」に加えて、海浜植物のタネで作る「海浜植物の標本づくり」を常時プログラムとして新設しました。

クラフト体験と海浜植物の標本づくりについては、センター外での普及啓発にて出展しました(表 1.5)。特にクラフト体験については人気が非常にあり、「クラフト体験をするためにイベントに来ました」「もっと体験したくてセンターに来館しました」というお声もいただき、海浜植物を身近に考えていただけるきっかけづくりとして非常に効果の高いプログラムとなっています。



図 1.9 海浜植物の標本づくり

4-2. センター外での普及啓発の実施

年度目標		具体的な業務内容	到達度
既存のプログラム実施。 体験を通じて海浜植物や海浜地、 生物多様性を学べるプログラムの 検討・検証。	↗	・関係主体の実施する事業等への協力、広報等の支援 ・教育機関の環境学習の実施/検証/修正 ・補助教材の見直し/修正	

CISEネットワークで作成した石狩浜のトランクキットや既存のプログラムを活用して、保護センター外での普及啓発事業については表 1.5 のとおりです。石狩市浜益区で実施しているグリーンインフラの実証実験に伴う小学校や中学校での授業のほか、石狩市の自然に関する出前授業でも標本などを持ち出して、生物多様性の普及啓発を進めています。

そのほか第15回科学の祭典 in 石狩や、「一般社団法人ちせ」が主催したイベント等へのブース出展をしました。館外での活動を通じ、保護センターへの来館に繋がっており、引き続きセンター内外問わず活動を続けていきます。



図 1.10 トランクキットの活用



図 1.11 第 15 回科学の祭典 in 石狩

表 1.5 センター外での普及啓発の実施

日にち	作業内容・備考
2025 年 5 月 1 日(木)	出前講座
5 月 21 日(水)	川下海岸の昔・今・未来グリーンインフラを学ぶ
6 月 11 日(水)	双葉小学校(出前講座)
7 月 16 日(水)	花川小学校(出前講座)
9 月 1 日(月)	浜益小学校(出前講座)
9 月 14 日(日)	第 15 回科学の祭典 in 石狩 (主催:科学の祭典 in 石狩 実行委員会)
9 月 20 日(土)	ウミバオロジー／石狩海辺学 2025-ウミベの寄り鯨- (主催:いしかり館ネットワーク)
11 月 1 日(土)	第 19 回環境科学展(主催:青少年科学館)

2026年1月24日(土) 25日(日)	CISEサイエンスフェスタ2026(主催:CISEネットワーク)
計 10 回	

4-3.参加型自然情報の収集

年度目標		具体的な業務内容	到達度
植生管理と連動した参加型資源活用プログラムの開発。 石狩浜に生息・生育する動植物の調査体験プログラムの開発。	→	・Ⅱ-2-2で検討した管理手法を活用したプログラムの検討、検証 ・動植物に関する体験プログラムの検討	

今年度は、昨年度に引き続き、再生園の花や実を利活用する事業者や市民による参加型の植生管理作業日を「ハマナス Healthy タイム」として表 1.3 のとおり開催しました。さらに、今年度は再生園の植生管理と、刈り取った植物を利用する体験イベント「ハマナス study ツアー」を年に3回開催しました。

また、絶滅危惧種のイソコモリグモの生息数調査と、GIS を活用したデータ収集を参加型調査体験として「石狩浜いきもの調査隊 砂丘の花と虫しらべ」を開催いたしました。



図 1.12 Healthy タイム

夏休みの期間に合わせて、クラフト体験の材料にチガヤの茎で作ったリースを土台として加えた「クラフト体験-オール石狩浜でつくる-」、月替わりのタネ標本づくりを、特別に5月から8月に提供していた種類を同時に作れる「海浜植物のタネ標本づくり-夏休みリバイバル-」など通常のプログラムに少し加えた夏休み限定イベントを開催しました。

その他、うみいくと共催でハマナス再生園の除草作業とブーケづくりを合わせたいイベントを共催で開催しました(表 1.8)。

表 1.6 ハマナス Healthy タイム実施状況

日にち	参加者数	作業内容・備考
7月10日(木)	5人	チガヤ除去、ハマナスビネガーシロップ試飲、ハマナスミニレクチャー
9月13日(土)	4人	ハマナス苗(18個)、草原種苗(45個)の移植、チガヤの刈取り
10月4日(土)	15人	チガヤ除去、苗づくり、苗の植え替え
計 3 回	24人	

表 1.7 ハマナス study ツアー実施状況

日にち	参加者数	作業内容・備考
5月18日(日)	8人	チガヤの穂でかざるリース
7月13日(日)	3人	イネ科の穂とアキグミの枝でつくるガーランド
10月5日(日)	7人	チガヤの茎でつくるしめ縄リース
計3回	18人	

表 1.8 その他イベント

日にち	参加者数	作業内容・備考
6月28日(土)	15人	石狩浜いきもの調査隊 砂丘の花と虫しらべ
7月26日(土)～ 8月24日(日)		石狩浜の自然であそぼう-クラフト・実つきWEEK- クラフト体験-オール石狩浜でつくる- 海浜植物のタネ標本づくり-夏休みリバイバル- ハマナスの実つき体験-石狩浜の夏の風物詩- 石狩浜探検道具―調査道具を見ちゃおう
9月6日(土)	16人	親子で楽しむ石狩浜の海浜植物観察(共催:うみいく)



図 1.13 昆虫採集の様子



図 1.14 夏休みイベント告知チラシ

5. 情報発信/連携

項目	目的
5-1.ホームページ維持管理	石狩浜の自然について、遠隔地に向けた普及啓発を目的に、ネットワークを活用した情報発信。また、市民の自主的な石狩浜の保全活動につながる情報の発信、活動の展開を図る。
5-2.情報誌の発行	
5-3.近隣施設での情報案内	

5-1.ホームページ維持管理

5-2.情報誌の発行

5-3.近隣施設での情報案内

年度目標		具体的な業務内容	到達度
海浜植物や、保護センターでの情報、石狩浜の生物多様性について広く情報を発信する	→	・調査写真や、観察園の開花情報などを随時ホームページにて更新(目安として月に1度) ・年に3回の機関誌発行 ・市内回覧を活用した普及啓発の推進	

ホームページのリニューアルに伴い、過去のホームページ内容を見直し、必要な内容を取捨選択し閲覧できるように修正しました。ホームページからInstagramの情報が得やすいように、配置の工夫などを改めました。Instagramについては、クラフト体験をした来館者へのカードにQRを入れ込み、外部でのイベントでも積極的にPRしています。

また、石狩市民図書館にある海浜植物花壇についても、1か月に1度は点検できるように調整し、除草や補植をしました。

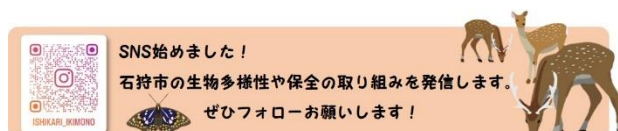


図 1.15 Instagramの普及啓発



図 1.16 海浜植物花壇

6. 調査研究の発信

項目	目的
6-1. 調査研究報告、学習報告等の掲示	石狩浜の自然に関わる、研究機関や教育機関等による研究や取組について紹介することで、より深い活動について知る機会を創出。

6-1. 調査研究報告、学習報告等の掲示

年度目標		具体的な業務内容	到達度
石狩浜に関する研究情報や、環境学習での学習成果等を年2～3件を目標に掲示する。	→	・調査者に活動報告の展示を依頼	

石狩浜周辺で実際に取り組んでいる専門的な研究について、来館者に知ってもらうため、ポスターや標本、調査道具などを表 1.10 のとおり掲示しました。

表 1.9 調査研究報告 掲示一覧

No	期間	内容
①	4月29日(月)～5月28日(水)	昆虫調査の報告
②	5月28日(水)～7月25日(金)	浜益区グリーンインフラの取組
③	7月26日(金)～8月9日(土)	石狩浜探検道具―調査道具を見ちゃおー 名無沼のアズマヒキガエル
④	8月10日(日)～9月日(土)	石狩浜探検道具―調査道具を見ちゃおー 防風林のキタハウネンエビ



図 1.17 調査研究報告 掲示様子